

自治体名	倉敷市
------	-----

女性の健康支援対策の概要

本市における女性の健康支援対策事業としては、女性の健康診査事業（20歳以上40歳未満の人を対象とした一般健康診査）ならびに乳がん、子宮がん検診を実施している。女性の健康診査事業は受診率が低いため、平成20年度から個別通知を行い、その改善に努めている。

しかし、いずれも健（検）診受診率は低く、受診率向上対策は、本市の最重要課題となっている。

そこで、年代や地区ごとの女性の健康課題を明らかにするとともに、乳がん・子宮がん検診について受診率の低い地区を選定し、女性が主体的な健康づくりを実践できるよう健康教育や普及啓発を実施し、その効果を評価し検診の受診率向上を図る。さらに、健康づくりを実践する動機づけとして、女性の健康課題に関する基本的な知識や生活習慣の重要性などの情報を提供するために、健康手帳、情報リーフレットの配布、情報発信Webを作成する。

自治体の特徴

倉敷市は、岡山県の南部に位置する中核市である。文化観光の町倉敷、繊維の町児島、工業の町水島、果物が特産の町玉島の4地区とH17年に合併した真備の5行政区に分かれ、各々の地区の産業形態や住民意識に合わせた保健事業を展開している。高齢化率は21.6%と年々増加し、高血圧・糖尿病など生活習慣病の受療率も増加している。

人口構成・(H21.9.30現在)

	総数	男	女
人	474415	232244	242171
割合(%)	100	49	51

15歳未満	71800	37030	34770
15～64歳	300087	150769	149318
65歳以上	102528	44445	58083
75歳以上	46325	17459	28866
85歳以上	12426	3179	9247

女性に関する健康課題

女性特有の市の健（検）診の受診率は、平成20年度で女性の健康診査9%、乳がん検診（視触診）12.9%、マンモグラフィ検診7.7%、子宮がん検診11.2%で非常に低い。しかし、実際には、市内には医療機関が充実し、市の検診以外で受診している人（職場の検診や人間ドックなど）は多いと予想されているが、受診状況は把握できていない。特に、若い世代の受診者は少なく、従来の広報では若い世代に効果的な普及啓発が行えていないことが原因の一つと考えられる。

また、従来から市では健康相談を行っているが、女性の健康問題に関する相談は少ない。しかし、当市の健康課題は明らかにできておらず、効果的な普及啓発を検討し、若い世代の女性にも利用しやすい女性の健康支援対策を展開していくことが必要である。

事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	920
(2) 中高年期における健康支援事業	1005
(3) 女性のがん支援事業	1730
(1)～(3)全てにかかる事業（健康実態調査、企画評価委員会）	2225
計	5880

(1) 思春期から 30 歳代における健康支援事業

事業名	情報発信 Web「女性の健康応援サポートプロジェクト」開設等、タイムリーな情報提供
分野	■健康教育 ■健康手帳の交付 □健康相談
事業費（千円）	920

事業目的

女性の健康に関わる重要な知識や生活習慣についての的確な情報を市民がいつでも必要な時に得られ、それを活用できることを目的にタイムリーな情報提供を行う。特に、対面で相談しにくい女性特有の健康問題や健康情報を、今までの市の広報手段で届きにくかった若い世代へのアプローチの手段として情報発信 Web 開設し、信頼できるサイトとのリンクによる正しい健康情報を提供し、身近な市の相談窓口の紹介を行う。

事業対象

倉敷市の思春期から中高年期の女性

事業実施体制・展開

- ① Webの作成は若者にも関心を向けてもらえるデザインとするため民間業者に委託し、市民の信頼度を高めるため市保健所のホームページ上に情報発信 Web「女性の健康応援サポートプロジェクト」開設する。
- ② 内容は、女性の各年代の健康問題を網羅できるよう「思春期のあなたに」「更年期の悩み」「女性特有のがん」「女性特有の病気」「こころの健康」「食事と健康」「女性を支援する活動」の7つのカテゴリーを情報提供する。
- ③ リンク先として、市が作成したページだけでなく、喫煙（財団法人健康・体力づくり事業財団）、飲酒（社団法人アルコール健康医学協会）、更年期障害・骨粗しょう症（NPO 法人『女性の健康とメノポーズを考える会』）、生活習慣病（厚生労働省）など信頼できるサイトとのリンクにより、詳細で正しい情報を提供するとともに、市の利用できる相談窓口等を紹介する。
- ④ PR方法 広報・メディア…市の広報誌、岡山県の子育て情報誌、FMくらしき、市長記者会見（地元新聞）チラシ配布（関連イベントチラシ内に情報掲載）…地区回覧、愛育委員会、栄養改善協議会、公民館、美容室、市役所窓口、栄養まつり、親子クラブ、健康福祉プラザ、幼児健診カード配布…イベント参加者、市内の美容院
- ⑤ その他、健康の自己管理意識を高めるツールの検討、提供
アンケート調査により効果的な健康管理ツールを明らかにし、イベント等で広く紹介・提供する。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① 情報発信 Web の関心度：アクセス数 986 件（11 月 20 日～2 月末）月平均 246.5 件
- ② 情報発信 Web の認知度：女性の元気いっぱいまつりでのアンケート 情報発信 Web を知っている人 20%
- ③ 情報発信 Web の内容充実度：7 カテゴリー 21 コンテンツ（うち、月経周期やダイエット、たばこ、拒食症など思春期～30 歳代の健康課題 16 コンテンツ）
- ④ 情報発信 Web の周知方法、周知機会・団体の拡がり：広報・メディア新聞等への紹介記事 4 回、ラジオ 1 回
チラシ配付協力団体数、8 団体 16243 枚
カード配付協力施設、美容院 206 ヶ所（1030 枚）、市内 64 地区愛育委員会（800 枚）
- ⑤ 若い世代がインターネットにより健康情報を得ている割合：20 歳代（29.9%）30 歳代（25.6%）40 歳代（21.2%）50 歳代（8.7%）60 歳代（2.6%）モデル地区アンケートから
- ⑥ 健康記録による自己管理意識の向上：女性の健康手帳配付数 870 件

事業の工夫点

今までの市の広報手段で届きにくかった若い世代が、気軽に健康情報を取り出すことができる手段として市のホームページ上にWebを立ち上げた。若者にも関心を向けてもらえるデザインとするため、Webの作成は民間業者に委託した。インターネット上には、健康情報が氾濫しているため、信頼できるサイトとのリンクによって正しい健康情報を提供することや身近な市の相談窓口の紹介も行った。

事業の効果についての評価・考察

健康情報を得る媒体としては、テレビ・本・雑誌等が各年代において上位をしめているが、若い世代ではインターネットの割合も多い。特に自分が関心をもった時に、タイムリーに自分が得たい情報を選択できる手段としてニーズが高くなっている。企画評価委員会でも働く女性が情報を入手する手段として要望が高かった。また、性感染症や月経の問題など女性特有の健康問題は、対面で相談しにくいことも多く、インターネットを活用した健康情報の提供は有効な手段であると考えられる。

11月20日にWebを開設し、地元新聞等にも大きく紹介されたがまだ周知度は低く、アクセス数は低迷している。女性の元気いっぱいまつりなど関連事業と併せて効果的な周知に努めているが、年度後半の事業であったため結果は評価に至らなかった。Webという一方通行の情報提供手段であるため利用者の反応・満足度などの評価は難しい。今後、若い世代へPRを強化し、自分の健康に関心を向け、市の相談窓口を知ってもらおうきっかけづくりとしたい。

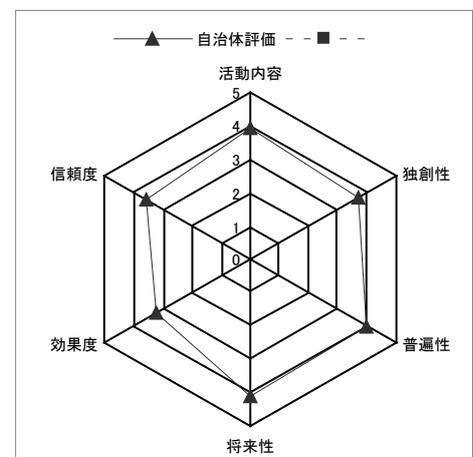
健康手帳・リーフレットの配布については、秋以降、インフルエンザ流行の影響により、予定していた配布数を配布できなかった。今後、広報などで周知し希望者への配布や、学校保健と連携して性教育の時間などに配布をするなど、学童期からの健康意識を高める環境づくりも合わせて行っていくことが必要である。

今後の課題

住民への周知のためには、検診受診者など健康に関心を向けている機会にWebや女性の健康手帳の紹介を行うなど、タイムリーで効果的な周知方法の拡がり、工夫が必要である。今後、最新の健康情報を提供し続け、内容の充実を図るためには、Webの維持・管理など専門的な技術が必要であり、単市で継続していくことが難しい。一般的な健康情報は各専門機関と連携し、全国的なネットワークを構築することが必要である。

ホームページ	http://www.city.kurashiki.okayama.jp/soumu-hk/
照会先	岡山県倉敷市健康づくり課健康増進センター 086-434-9866

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.9	Webは認知度が低くPR不足。若い世代や対面で相談しづらい女性の問題には有効。手帳はニーズに合うか要検討。
②独創性	3.7	Webは内容が少なく、更に詳細にしていく必要がある。
③普遍性	4.0	WebはPRして、他県や全国からのアクセス増加を目指してほしい。
④将来性	4.1	Webは、不特定多数に情報発信できる手段として今後不可欠なツール。手帳は学校保健と連携し、性教育で配布を。
⑤効果度	3.2	Web、手帳とも、PR不足。利用し、読めばすばらしいヒントになると思う。
⑥信頼度	3.6	Webに関心のある若い世代へのPRが足りない。専門家などの意見も載せたらよいのではないか。



1、情報発信 Web「女性の健康応援サポートプロジェクト」開設

・リンク先

性感染症（倉敷市保健所保健課感染症係）、喫煙（財団法人健康・体力づくり事業財団）、飲酒（社団法人アルコール健康医学協会）、更年期障害・骨粗しょう症（NPO 法人『女性の健康とメノポーズを考える会』）、生活習慣病（厚生労働省）、こころの相談窓口（倉敷市保健所保健課精神保健係）、検診受診方法・検診受診機関（倉敷市保健所健康づくり課）

・PR方法

媒体	PR場所	枚数・回数
紙面	広報、岡山県の月間子育て情報誌、地元新聞	3回
メディア	市長記者会見、FMくらしき2回	3回
女性の元気いっぱいまつりのチラシ内に掲載	地区回覧、愛育委員会、栄養改善協議会、公民館、美容室、市役所窓口、栄養まつり、親子クラブ、健康福祉プラザ、幼児健診	16,243枚
カード配布	愛育委員、美容室206店舗	1,830枚
イベント	くらしき女性の元気いっぱいまつりでのPR	270名

・情報発信 Web の関心度

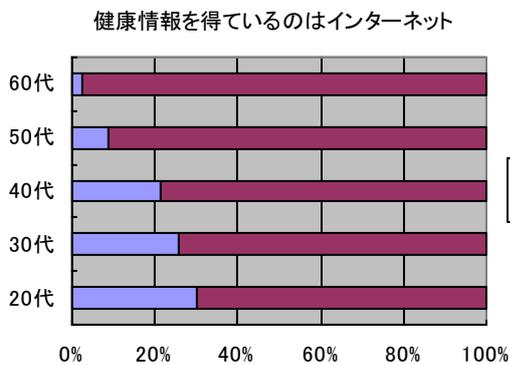
	11月	12月	1月	2月	合計	月平均
アクセス数	344	188	317	137	986	246.5

・情報発信 Web の認知度（女性の元気いっぱいまつりアンケート調査より）

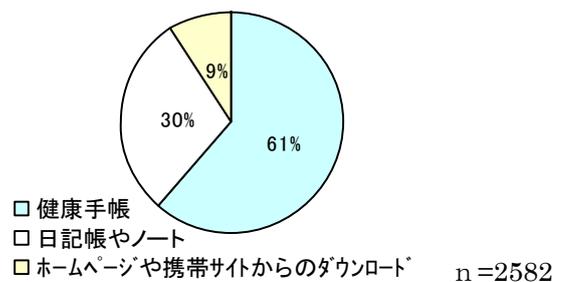
	知っていて 利用したことがある	知っているが 利用したことはない	知らなかった
%	4%	16%	80%

2、モデル地区アンケート調査より

・健康情報の取得にインターネットを活用している割合



・健康記録の活用について健康記録との何が活用しやすいか



3、健康手帳・パンフレット等の交付

様式2 資料倉敷市

女性の健康手帳（一生を通じての女性の健康情報を得て検診や月経の記録などを記入できるもの）とリーフレット（女性のからだのメカニズム、女性がかかりやすい生活習慣病、女性特有の病気の基礎知識、ひょっとして更年期？、あなたの骨は大丈夫？、早期発見が決めて乳がんなど12種類）を健康関連イベントで配布した。なお、秋以降、インフルエンザ流行の影響でイベントの中止が相次ぎ、予定していた配布数を配布できなかった。

・女性の健康手帳・リーフレット配布状況

配布先	手帳	リーフレット
栄養イベント	600	0
くらしき女性の元気いっぱいまつり	270	600
女性の健康週間	0	70
計	870	670

4、情報 Web の実際の画像

くらしきのすべての女性のために
**女性の健康
サポートプロジェクト**

女性の心身の健康に関わる基礎知識や、くらしきの健康支援など、さまざまな情報を発信して、女性の健やかな暮らしを応援します！

お知らせ [▶一覧を見る](#)

NEWS 2010.03.01
食事と健康のページを更新しました！
女性を支援する活動のページを更新しました！

EVENT 2010.02.28
くらしき女性の元気いっぱいまつりを開催しました！
ご参加、ご協力いただいたみなさんに感謝申し上げます。

「女性の健康サポートプロジェクト」は、女性の健康をテーマに情報をお届けしています。健康への知識と理解を深めるために、当サイトが皆様のお役に立てれば幸いです。
ますます充実したサイトを目指して、随時更新してまいりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

倉敷市保健所健康増進センター
〒710-0834 倉敷市笹沖170
TEL.086-434-9866 FAX.086-434-9805

Copyright © 2010 Kurashiki All Rights Reserved.

(2) 中高年期における健康支援事業

事業名	くらしき女性の元気いっぱいまつり		
分野	■知識の提供	■健康相談	■情報提供
事業費(千円)	1005		

事業目的

女性の健康は女性ホルモンの働きによりライフサイクルで変化し、年代ごとに健康課題も異なる。しかし女性にとって健康であることといつまでも美しく輝き続けることは共通の望みである。「健康」だけでなく「癒し」「美」「食」といった関心の高いテーマを盛り込むことで今までの健康に関するイベントに参加することのなかった女性にも広く参加を呼びかけ、各年代の参加者が講演や展示、体験、専門家による相談の機会を得ることで自分や家族の健康を考え、実行するきっかけづくりとする。またこの事業の広報を通じ、倉敷市が行う女性の健康支援事業を広く市民に周知する機会とし、市民の健康意識を高める。

事業対象

倉敷市の思春期から中高年期の女性

事業実施体制・展開

- ① 実施内容について検討、関係団体にPRや実施内容への協力を依頼。(愛育委員会、栄養改善協議会、親子クラブネットワーク、美容組合、健康福祉プラザ、岡山県放射線技師会、乳がん患者支援団体、社会福祉協議会)各外部講師への依頼。
- ② 周知方法 地区回覧、関係団体・施設へのチラシ配布、市広報誌、関連事業・幼児健診でのチラシ配付メディア(地元新聞、FMラジオ、子育て情報誌)
- ③ 実施内容 ・**シンポジウム**: テーマ「いつまでも美しく輝いて!」医師の講演後、シンポジスト(子育て世代代表2名、乳がん体験者支援団体代表)と意見交換を行う。・**健康のコーナー**: 測定(血圧・体脂肪・血流・骨密度・足裏)、相談(女性医師・助産師・乳がん体験者)、展示コーナー(女性のがん:マンモグラフィ機器やフィルムなど実物展示、マンモ触診モデル)、更年期、生活習慣病などのパネル)
 - ・**食のコーナー**: 親子で参加できるおやつ作り・生活習慣病予防・貧血・骨粗しょう症予防の献立展示・試食
 - ・**癒しのコーナー**: ヨガ・ピラティス体験とアロマ体験
 - ・**美のコーナー**: 美容組合によるメイク&ヘアのワンポイントアドバイスやカラーコーディネート講座を行う。
- ④ 終了後、協力団体(者)に向け、当日の様子を収めた新聞を発行し、今後の連携のきっかけづくりとする。女性の健康支援プロジェクトWebでイベントの実施内容を公開。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① イベント参加者数 270名 うち、健康イベントへの初参加率67%
(10~20歳代8%、30歳代18%、40歳代10%、50歳代16%、60歳代32%、70歳代以上16%)
- ② 関係団体の連携の広がり 協力団体数 8団体 (うち、新規協力団体 3団体)
- ③ 健康に関する知識の変化 アンケート調査 新たに得た知識あり 190/220人
- ④ 健康に関する意識の変化 アンケート調査 健康のために取り入れようと思う項目あり 211/220人、
内訳(良い生活習慣に心掛ける142/220人 検診を受診する78/220人)
- ⑤ 参加者満足度 参加者アンケート調査 大変満足33%、やや満足62%、やや不満足5% 不満足0%
- ⑥ 健康コーナー参加率 全員いずれか1つ以上参加(シンポジウム63%、測定73%、相談24.8%、展示81.5%)
- ⑦ 情報提供の効果 どこで知ったか チラシ配付枚数16,243枚 (参加動機1位は地区回覧による参加26.4%)
- ⑧ 魅力あるイベント内容 40歳未満の1位(癒し53.7%) 40~50歳代の1位(健康測定コーナー61.1%)

事業の工夫点

地域で開催している既存の健康イベントは高齢者の参加が多いため、若い女性が関心を持ちやすい癒しや美などの内容を盛り込み、全員が健康に関する知識・体験を深められるようスタンプラリーを実施し健康コーナーに立ち寄ってもらう工夫を行なった。また子育て世代も参加しやすいように託児を行った。同じく、女性の健康支援事業で実施している健康サポートプロジェクトとチラシのイメージをあわせ、相互に事業の紹介を行うなど効果的なPRを行った。

事業の効果についての評価・考察

参加者満足度は95%と高率であった。このことは、参加者が、新たな知識の習得だけでなく、実際の機器の展示や、体験を通じ、新たな健康行動への意識を高めたためではないかと考える。特に講演のテーマに、今まであまり実施したことのない「女性ホルモンと健康」をとりあげたこと、美と癒しといった女性の関心が高い内容を盛り込んだことにより、初めての参加者を多く得ることができた。また、従来から地域のイベントで実施している測定コーナーも予想以上に盛況で関心の高さが伺えた。これらは、参加者の固定化が課題となっている地域のイベントの今後の企画・広報の工夫として活かすことができる。

若い世代では、美や癒しのコーナーなど、チラシ配付時の反響は多くあったものの当日イベントに参加する者は少なかった。30歳代の参加者は既存事業に比べ多かったものの、全体としては60歳以上が約半数であった。参加のきっかけは全年齢では地区回覧や広報が多いのに比べ、40歳未満では口コミが多かった。参加を促すためには一律の広報だけでなく年代毎に有効な広報の方法の検討や、地域の関係性や誘いあいに関心する等の工夫が重要である。

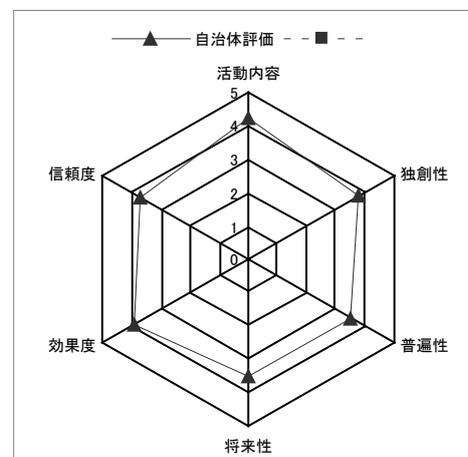
今回のイベントのPRを通じ、イベントだけでなく倉敷市が女性の健康支援事業に取り組んでいることを広く市民に周知する機会となり効果的であった。

今後の課題

年代別の有効な働きかけ方法など、今回の事業で明らかになった普及啓発方法、関心の高い内容を取り入れるなど、既存事業に役立てることができ、全国でも活かすことができる。

ホームページ	http://www.city.kurashiki.okayama.jp/soumu-hk/
照会先	岡山県倉敷市健康づくり課健康増進センター 086-434-9866

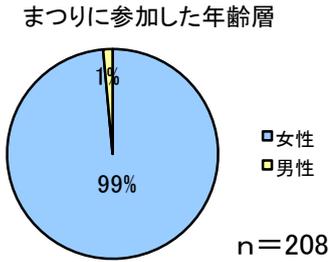
事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.2	地域からの盛り上がりではなく唐突なイベント。多彩な内容で、女性ホルモンと健康の目新しいテーマでよかった。
②独創性	3.8	女性の興味がわくような自由な発想で展開されて良い。
③普遍性	3.5	他地域や他のイベントでもヒントになる内容であった。
④将来性	3.5	毎年継続できれば、可能性はある。
⑤効果度	3.9	参加者の満足度が高く、地域では参加者の少ない若い人の参加が多数だった。
⑥信頼度	3.7	身近な場所で健康について考えていける内容だった。



配布数:270枚、回収数220枚、回収率81%

1. 性別

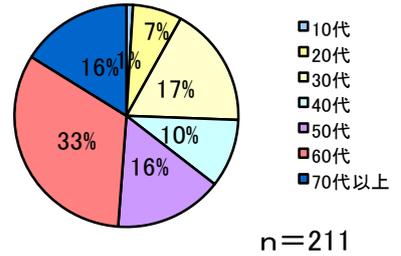
女性	206
男性	3



2. 年代
平均年齢54±15.9歳

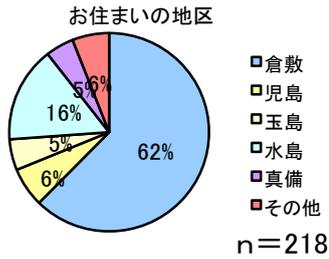
10歳代	2
20歳代	15
30歳代	37
40歳代	21
50歳代	33
60歳代	69
70歳代以上	34

まつりに参加した年齢層



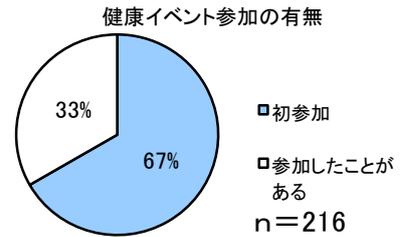
3. お住まいの地区

倉敷	136
児島	14
玉島	11
水島	34
真備	10
その他	13

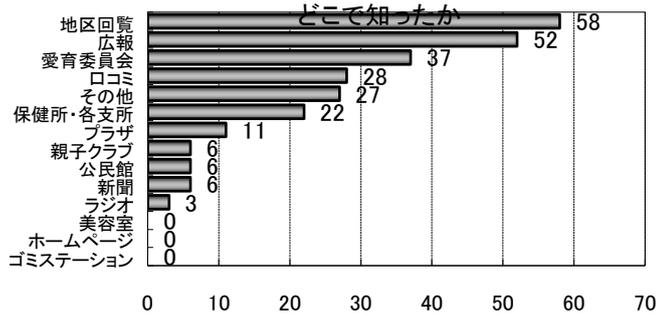


4. 健康に関するイベントに参加したことがあるか？

初参加	144
参加したことがある	72

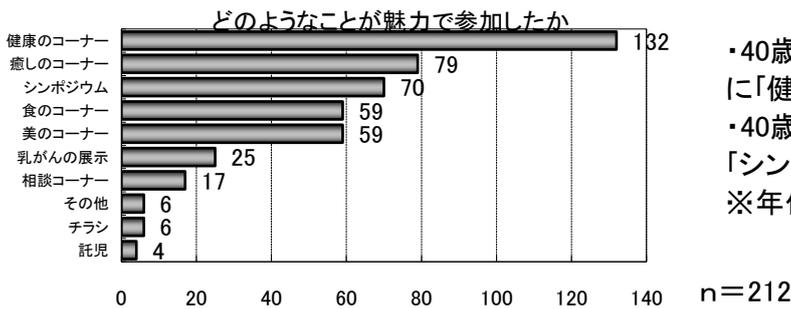


5. このまつりをどこで知りましたか？（複数回答可）



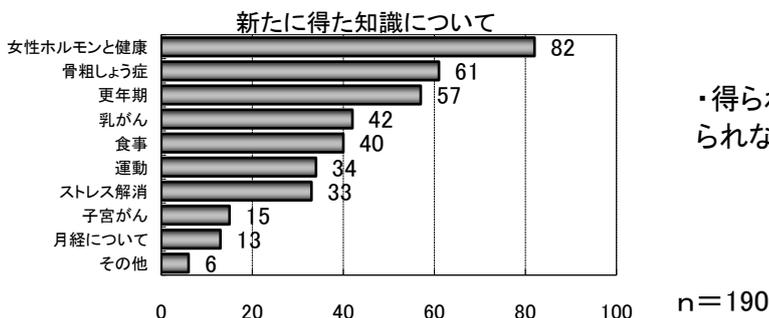
・40歳未満では「ロコミ」と回答した人が最も多く、次に「地区回覧」「保健所・各支所」だった。
・40歳以上では「地区回覧」が最も多く、次に「広報」「愛育委員会」だった。
※年代によってイベントなどについて知るきっかけ

6. どのようなことに魅力を感じて参加しましたか？（複数回答可）



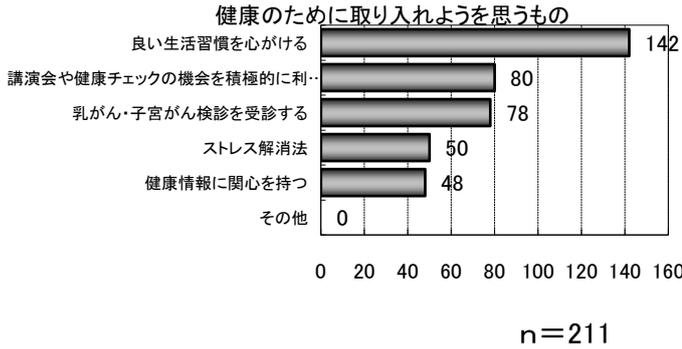
・40歳未満では「癒しのコーナー」が最も多く、次に「健康のコーナー」「食のコーナー」だった。
・40歳以上では「健康コーナー」が最も多く次に「シンポジウム」「癒しのコーナー」だった。
※年代によって興味や関心ごとの違いが出てい

7. 今回参加して、新たに得られた知識はどのようなことですか？（複数回答可）



・得られた知識については年代による違いはみられなかった。

8. 今回参加して、自分の健康のためにどのようなことを取り入れようと思いましたか？（複数回答可）

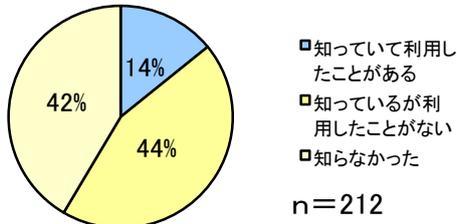


・40歳未満では「良い生活習慣を心がける」が最も多く、次に「乳がん・子宮がん検診を受診する」「ストレス解消」だった。
 ・40歳以上でも「良い生活習慣を心がける」が最も多く、次に「講演会や健康チェックの機会を積極的に利用する」「乳がん・子宮がん検診を受診する」だった。
 ※年代によって、健康のために取り入れる方

9. 倉敷市保健所や各支所で健康に関する相談を行っていることを知っていますか？（複数回答可）

知っていて利用したことがある	30
知っているが利用したことがない	94
知らなかった	88

健康相談の周知度について

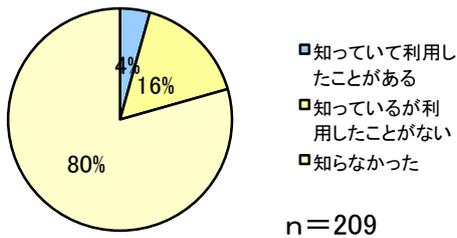


・40歳未満では約62%、40歳以上では47%が健康相談を行っていることを知手居ることがわかった。
 ※年代によっての周知度の違いが出ていた。

10. 倉敷市は女性の健康サポートプロジェクトという情報Webを開設していることを知っていますか？

知っていて利用したことがある	9
知っているが利用したことがない	34
知らなかった	166

情報提供Webの開設の周知度について

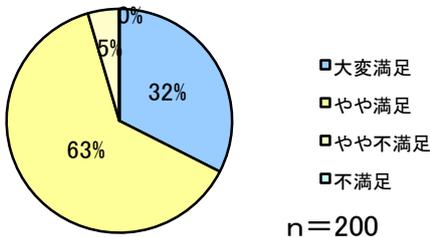


・情報Webの周知度は20%と低く、「利用したことある」と回答した人はわずかであった。

11. 今回参加しての満足度を教えてください。

大変満足	65
やや満足	126
やや不満足	9
不満足	0

情報提供Webの開設の周知度について



・「大変満足」「やや満足」と回答した人は95%であり満足度の高いまつりであったことがわかった。

(3) 女性のがん健康支援事業

事業名	モデル地区での乳がん・子宮がんに関する重点健康教育・普及啓発		
分野	■啓発活動	■健康教育	□健康相談
事業費（千円）	1730		

事業目的

乳がん・子宮がんが急増しているにもかかわらず受診率が低い20～30代の女性や、今までおこなってきた普及啓発方法では十分周知できていなかった市民に対して重点的に健康教育・普及啓発を実施・評価することで乳がん・子宮がん検診受診率向上を図ると共に、効果的な健康教育・普及啓発方法について分析し、今後の事業に活かす。

事業対象

倉敷市内の受診率の低いモデル地区4地区の住民

事業実施体制・展開

- ① 市内4ブロックの中から、各1地区ずつ受診率の低い地区をモデル地区とし、地区の住民に対し、重点的に健康教育と普及啓発を行う。
 - ア) 重点的健康教育：地域の20～40歳代の女性が多くいる、幼稚園、小・中学校の保護者が集まる機会や場の他、地区特性などを捉えモデル地区に重点的に健康教育を行う。
健康教育媒体としては共通のチラシ、パワーポイントを作成し使用する。
健康教育先の園長や校長へなどの理解が得られるよう、地域のボランティアや保健師が依頼する。
参加者アンケートにより健康教育前後の意識、知識、行動の変化をみる。
 - イ) 重点的普及啓発：モデル地区のスーパー、駅、コンビニ、薬局など、生活に密着した場所へのPR紙の配布やポスターを貼付し、普及啓発をおこなう他、チラシの地区回覧や、秋祭りなど地域のイベントでの普及啓発活動を行う。
普及啓発には、共通の普及啓発媒体（チラシ、ポスター、カード）を作成し使用する。
- ② モデル地区と非モデル地区に、重点的健康教育・普及啓発を行った後に20～60歳代の地区住民各年代300人1地区1500人5地区計7500人にアンケートを行い、健康教育の利用率、普及啓発の周知度、乳がん・子宮がんについての知識、意識、がん検診の受診行動の違いや地域全体への影響をみる。

事業目標・評価項目 及び その結果

- ① モデル地区において乳がん・子宮がん検診の受診者数・受診率が増加。検診受診者数前年比（受診率の前年比率）
子宮がん：1.55倍（+2.3%）視触診：1.42倍（+2.4%）マンモ：1.75倍（+2.5%）
- ② 健康教育参加者の乳がん・子宮がんに関する知識が向上。（参加者アンケートより）
知識の獲得率 子宮がん3項目95～99% 乳がん4項目97～98% 共通項目99%
- ③ 健康教育参加者の乳がん・子宮がんに関する意識・受診行動意欲の向上。
（参加者アンケートより）未受診者が今後受診する（非常に思う・やや思う）子宮がん72% 乳がん73%、
- ④ 効果的な普及啓発方法により地域全体の乳がん・子宮がん検診の認知度が向上し、受診行動意欲が高まる。
ポスター・チラシを見た38%、子宮がん受診意欲の向上効果（非常に思う・やや思う人）73%（+5%）
乳がん受診意欲の向上効果（非常に思う・やや思う）74%（+8%）
- ⑤ 啓発に協力した施設数 健康教育：17施設（うち新規11）普及啓発：153施設（全て新規）

事業の工夫点

乳がん・子宮がん検診受診率が低い20～30歳代の女性に働きかけるため、今まで直接アプローチのできていなかった幼稚園、小・中学校などの保護者へ向けた健康教育の実施や、地域のスーパーや飲食店、コンビニなど生活に密着した施設へ協力を得る。媒体による効果の違いを配慮し共通の教育・普及媒体を作成する。参加者評価だけでなく、地域全体の波及効果をみるため住民のランダム抽出アンケート調査を行う。

事業の効果についての評価・考察

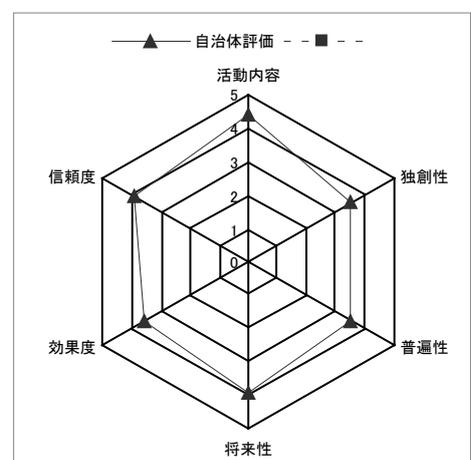
- ① 重点健康教育の実施時期が新型インフルエンザの流行と重なったため、PTAなど教育機関での開催が難しかった。参加者には新たな知識の獲得や受診意欲の向上が見られ効果があったといえる。受診率に与えた効果としては、今年度は無料クーポン券やテレビ、映画などの影響も大きく、単純に効果を比較することができなかったが、モデル地区は市の平均と比較すると受診率の伸び率は高く、受診率向上効果もあったと考える。
この事業を実施するにあたり地域で女性の所属する団体に新たに健康教育を行った場所もあり、今後の連携の機会につながった。
- ② 普及啓発については、ポスター・チラシを見たと答えた者は約4割で、医療機関など健康に関心を向けやすい場や地域の回覧などが印象に残っていることがわかった。しかし、実際に受診行動に至った理由としては回覧・チラシの影響は低く、単なるポスター・チラシなどの普及啓発だけでは行動化には至りにくいと考える。がんになりやすいといった知識や危機感を高める健康教育や、友人知人等で勧めあう地域の風土をつくる支援を併せて行うことが必要である。
- ③ 新規の健康教育・普及啓発先としては、地区の健康ボランティアや地区組織から働きかけた場所が多く、地域を巻き込んだ展開方法の大切さが再確認できた。

今後の課題

効果的な健康教育場所や普及啓発方法について、今回の結果を報告し、地域の関連団体が主体となって継続して活動できるように意識を高めていくことが必要である。モデル地区だけでなく、他の地域や全国的にも実施していくことは可能だが、地域組織が崩壊している地域もあり、どの団体に向けて協力を求めるか地区の特性を踏まえて実施する必要がある。

ホームページ	http://www.city.kurashiki.okayama.jp/soumu-hk/
照会先	岡山県倉敷市健康づくり課健康増進センター 086-434-9866

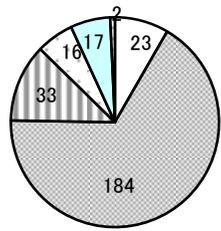
事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.4	地域、学校、組織などを広く巻き込んでの活動となり良かった。
②独創性	3.5	新しい方法、場への働きかけができた。地域に密着したプロジェクトであった。
③普遍性	3.5	地域からの活動が全国に広がるので、これからの活動したい。
④将来性	3.9	住民のエンパワメント、育成により地道な活動を続けてほしい。
⑤効果度	3.6	小集団への健康教育は効果がある。普及啓発は、他の影響があり、裏づけが難しいが受診率は上がった。
⑥信頼度	3.9	今後、調査の比較に有意差検定、クロス集計など分析をしてほしい。



子宮がん・乳がんの健康教育前後のアンケート結果

様式4資料倉敷市

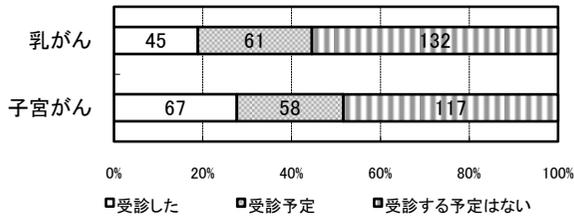
図1 年齢層



n=275

□20歳代 □30歳代 □40歳代 □50歳代 □60歳代 □70歳代

図2 乳・子宮がんを今年受診しましたか

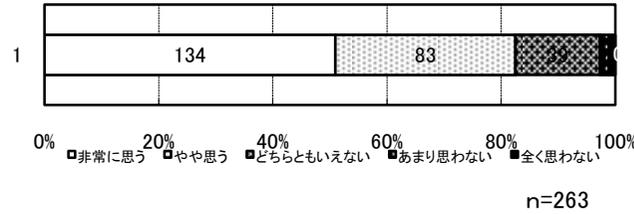


n=238

n=242

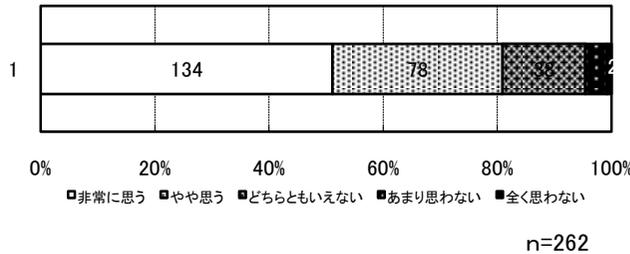
0% 20% 40% 60% 80% 100%
 □受診した □受診予定 □受診する予定はない

図3 今後乳がん検診を受ける



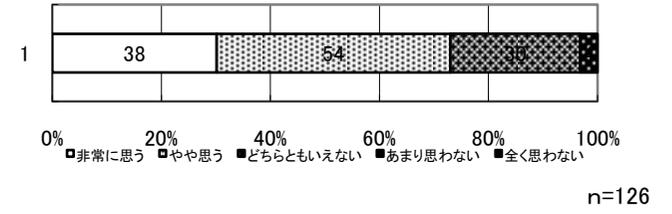
n=263

図4 今後子宮がん検診を受ける



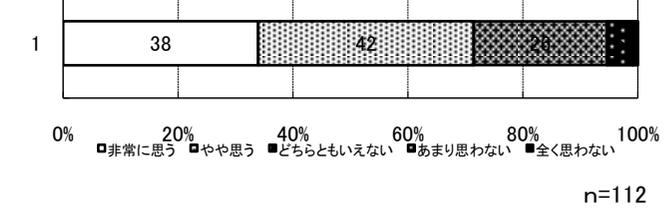
n=262

図5 乳がん検診を受診する予定はない人が健康教育後に検診を受診するか



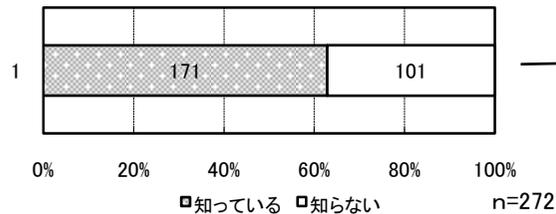
n=126

図6 子宮がん検診を受診する予定はない人が健康教育後検診を受診するか



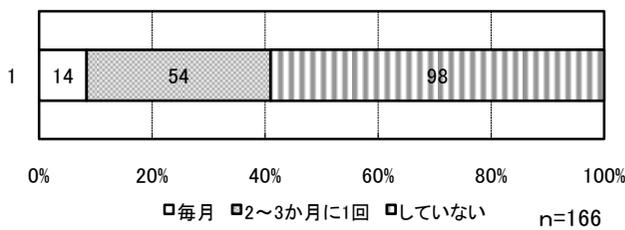
n=112

図7 乳がんの自己検診法を知っているか



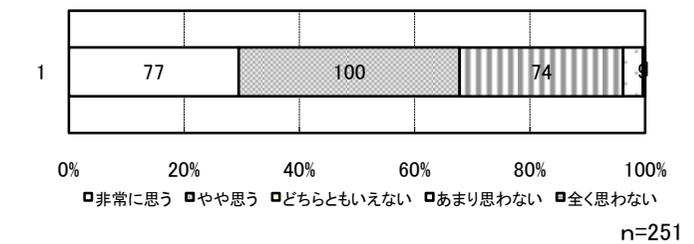
n=272

図8 自己検診法を実施しているか



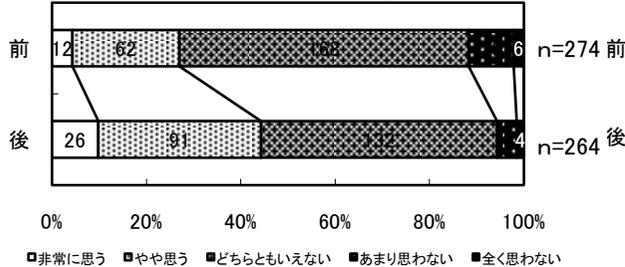
n=166

図9 今後自己検診を毎月行う



n=251

図10 健康教育前後で乳がんになる可能性の意識変化

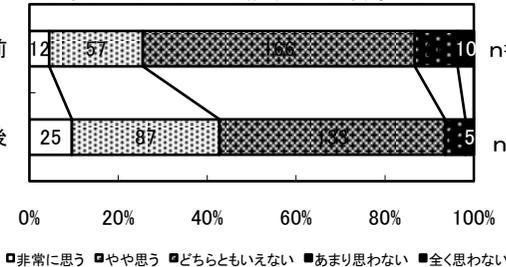


n=274

n=264

0% 20% 40% 60% 80% 100%
 □非常に思う □やや思う □どちらともいえない □あまり思わない □全く思わない

図11 健康教育前後で子宮がんになる可能性の意識変化



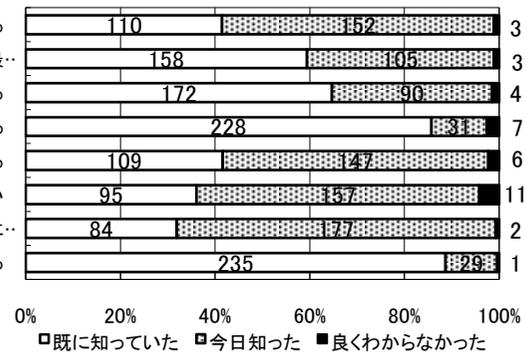
n=271

n=262

0% 20% 40% 60% 80% 100%
 □非常に思う □やや思う □どちらともいえない □あまり思わない □全く思わない

乳がんは急増し、20人に1人がかかる
 乳がんは30歳代から増加し、40~50歳代が最も多い
 乳がんは早期に発見すれば、約9割の確率で治る
 乳がんは自己検診法で発見できる
 子宮頸がんは20歳代から急増する
 子宮頸がんはウイルス感染によるものが多い
 子宮体がんは40歳代から増え始め、閉経後に急増する
 検診を受けることががんの早期発見に有効である

図12 健康教育後の知識の変化



0% 20% 40% 60% 80% 100%
 □既にかつていた □今日知った □良くわからなかった

④どこでポスターやチラシを見たか

①年齢別回収率

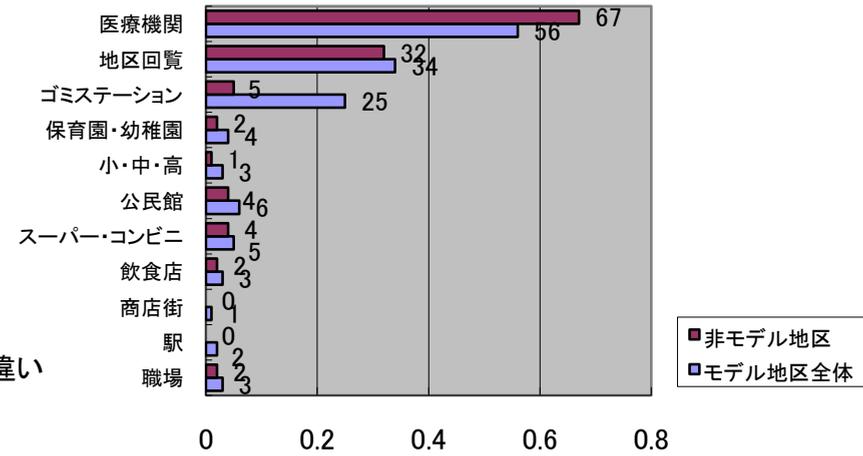
	回収数	回収率
20～29歳	334	22.20%
30～39歳	515	34.30%
40～49歳	546	36.40%
50～59歳	600	40%
60～69歳	687	45.80%
無回答	13	
全体	2695	35.90%

②乳がん・子宮がんの

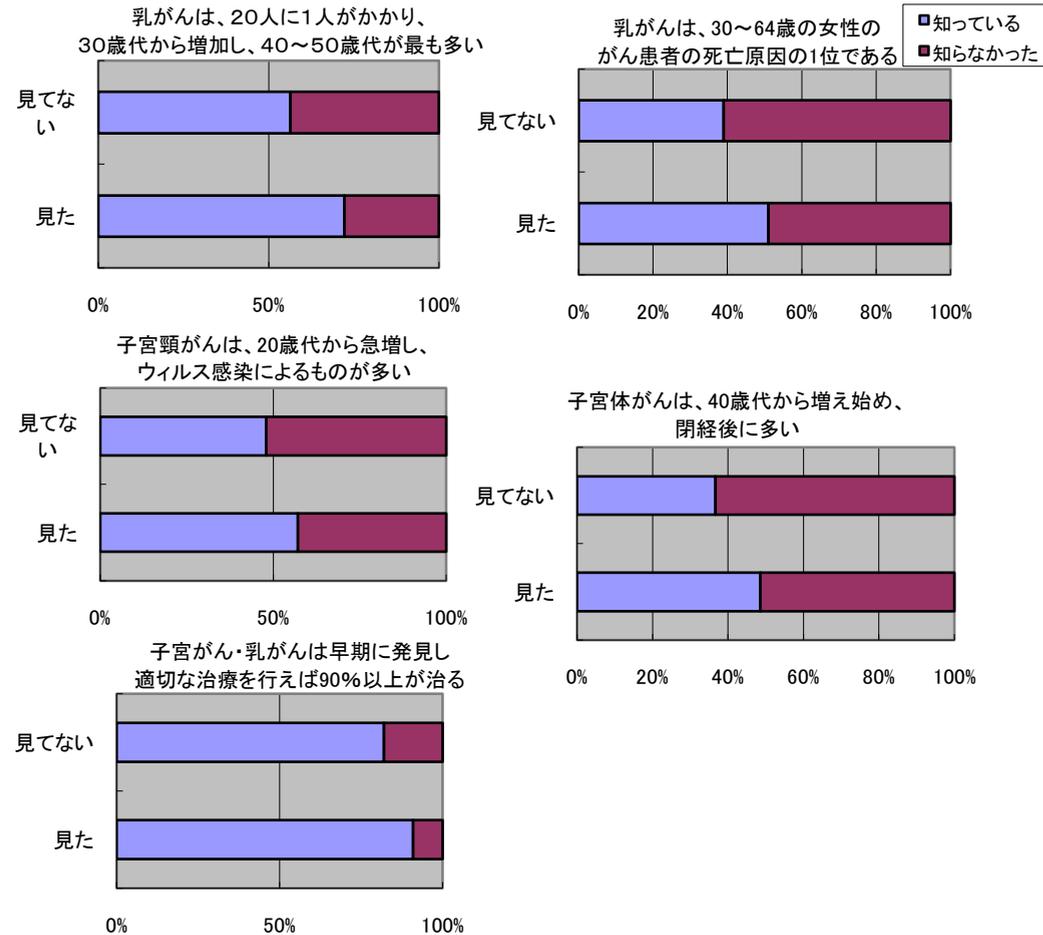
地区	はい	いいえ
A	7%	93%
B	6%	94%
C	5%	95%
D	3%	97%
モデル全体	5%	95%
非モデル	2%	98%

③ポスターやチラシを

地区	ある	なし
A	49%	51%
B	32%	68%
C	39%	61%
D	29%	71%
モデル全体	38%	62%
非モデル	23%	77%



⑤モデル地区の人でポスターやチラシを見たかどうかによる子宮がん・乳がんの知識の違い



⑥モデル地区の人でポスターやチラシを見たか

